

地域力を活用した児童の「生きる力の育成」

周南市立須磨小学校 PTA

1 学校地域の概要

PTA会長	:	田中友和
学校長	:	坂井竹俊
児童数	:	14名
家庭数	:	8世帯
教職員数	:	8名
所在地	:	〒745-0401

周南市須万2581

TEL 0834-86-2210

FAX 0834-86-2211

E-mail sumasjm@shunan.ed.jp



(1) 地域の特徴

本校の位置する須金地区は、中国山地の谷間を走る錦川の上流にあり、周南市北部の山間地に位置する。平地は少なく、生活圏は標高 170mから 350mにわたる。地域は、戸数約 200 戸、人口約 300 人で、過疎化が進行している。人口は減少し少子高齢化は著しいが、地域の人々の愛郷心は旺盛で、地域のシンボルとして学校に寄せる期待は大きく、学校の教育活動に対する理解と協力は絶大なものがある。地域の特徴としては、伝統工芸「須金和紙」の伝承、なし・ぶどうの地場産業の振興により、ふるさと創生に取り組んでいる。また、各種団体による地域おこしも精力的に行われている。



(2) 学校の歴史

明治 8 年、須万小学校として創立し、明治 20 年には学制改革により村立須磨尋常小学校と改称される。昭和 41 年都濃町が徳山市と合併し徳山市立須磨小学校と改称し、平成 2 年には中学校が併設され、須磨小学校・須金中学校併設校として新たに出発した。平成に入ってから児童が激減し、平成 21 年には 3 名となったが、30 年度は 15 名まで回復した。

(3) 学校経営基本構想

【学校教育目標】

ふるさとを愛し、未来を拓く、人間性豊かでたくましい須磨っ子の育成

【めざす学校像】

「元気な学校」 「育てる学校」 「信頼される学校」

- 一人一人のよさや可能性を伸ばしていく学校
- 豊かな人間性を育み、思いやりの心やふるさとを愛する心を育てる学校
- 個に応じた指導による確かな学力を育てる学校
- 家庭・地域との連携を図り、地域に開かれ、地域に信頼される学校
- 須金の特色を生かした創意と活力あふれる学校

【めざす児童像】

かしこく〈知〉：楽しみながら自分から学ぶ子

やさしく〈徳〉：思いやりの心を持ち、みんなのために行動する子

たくましく〈体〉：つよい心と体でがんばる子

【めざす教師像】

子供と共に成長しようと努力する教師

子供の良さや可能性を伸ばそうとする教師

子供・保護者・地域に寄り添う教師

【学校経営の方針】

「学校の地域性や小規模校の特性を生かし、一人一人を大切にす教育の推進」

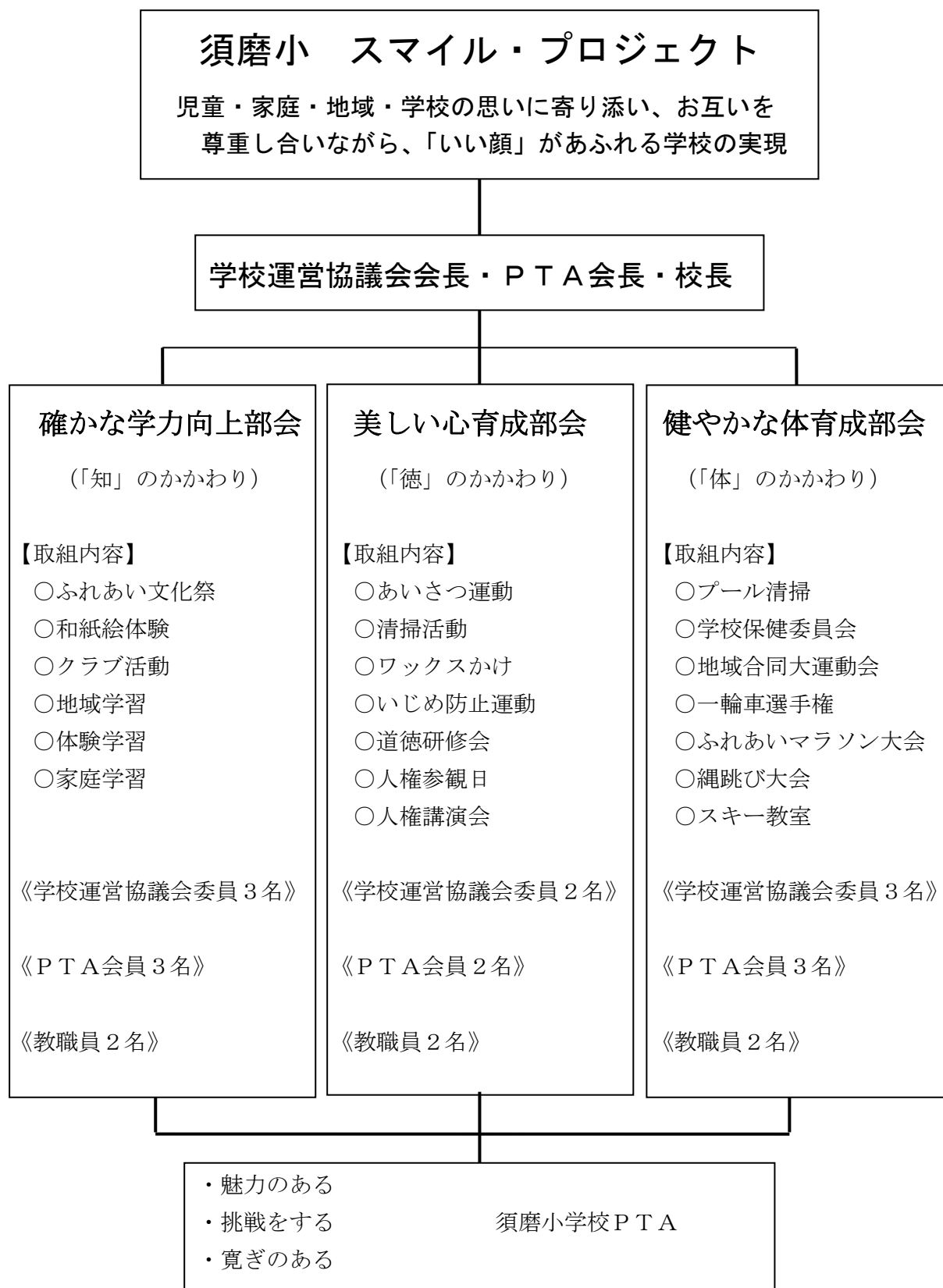
- 「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりを行い、児童の確かな学びを保障する。
- 地域の特色を生かし、体験を重視した教育活動を展開する。
- 個々の児童にしっかりと目を向け、児童の思いに寄り添いながら、個に応じた教育活動を展開する。(特別支援教育の視点を踏まえて)
- 「道徳科」の実施にあたり評価を含めた研修を深めると共に、児童の道徳性の向上に努める。
- 家庭教育への支援を積極的に行い、教育の充実を図る。
- 幼保小中高の連携を深め、なめらかな接続を確立する。

【重点的な取組】

- ガイド学習の深化・充実を目指した授業を行うと共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 学校の特性を生かした体験活動・交流活動を推進し、豊かな心と主体的な学習態度、コミュニケーション能力を育てる。
- 「道徳科」の授業を中心とした道徳教育の充実を図り、児童の心を磨き育てる。
- 体力増進（特に投力と柔軟性）のための取組を、年間を通じて、計画的かつ継続的に行う。
- 家庭と連携し、生活の基盤となる規則的な生活習慣を身に付けさせるよう働きかける。
- ユニット型研修を実施すると共に、学校運営協議会の学校運営に係る取組を充実させる。
- 自らの思いを表現する場を積極的に設定し、表現力を高める。

2 PTA の概要

(1) 組織図



(2) 2019 年度事業計画

学校や地域と連携しながら、様々な P T A 活動を通して児童の心・技・体に調和のとれた育成を行う。

【研修関係】

- 周南市 P T A 連合会総会参加 5 月 22 日(水)
- ハートフル人権セミナー 6 月 11 日(火)
- 市 P 連女性副会長会参加 7 月 5 日(金)
- 教育講演会の開催 10 月 19 日(土)
- 周南市山口県 P T A 研修大会 下松大会参加 12 月 15 日(日)
- 周南市 P T A 連合会特別記念講演会参加 1 月 17 日(金)
- スキー教室 2 月 10 日(月)

【保健・補導関係】

- 交通指導・交通安全指導 通年
- 校外補導協議会 7 月 4 日(木)
- 救急救命法講習会・学校保健安全委員会 6 月 2 日(日)
- 持久走大会運営補助 12 月 5 日(木)

【地域連携関係】

- 地域合同大運動会 5 月 19 日(日)
- 須金なし・ぶどう祭 8 月 24 日(土)
- ラジオ体操(夏休み:火・金曜日に実施)
- ふれあい文化祭・バザー 10 月 19 日(土)
- 地区合同防災訓練 11 月 17 日(日)

【児童体験活動促進】

- 少年消防クラブ夏季研修会参加 7 月 29 日(月)~30 日(火)(1泊2日)
- 学習支援・自然体験活動(川遊び、和紙漉き、楮皮剥体験等 随時)
- 亀山八幡宮大祭 10 月 13 日(日)
- クリスマス会 12 月 13 日(金)
- 周南市消防出初め式 1 月 5 日(日)

3 研究テーマについて

(1) 研究テーマ

地域力を活用した児童の「生きる力の育成」

(2) テーマ設定の理由

極小規模校の本校 P T A は全家庭数が 8 戸であるが、P T A が関わる活動や行事については保護者が毎回全員参加するため、結束は固い。また、地域は過疎化が進んでいるが、人々の教育の関心が高さとこの地域ならではの歴史、風土、産業は、大きな地域の力といえる。潜在的な地域の力を P T A の結束力で引き出し生かすことで、児童の「生きる力」を育成できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

4 活動内容

(1) 地域力（ひと・もの・こと）を活用した児童の「生きる力」の育成

①地場産業(なし・ぶどう栽培)との関わりを通して

○須金なし・ぶどう祭

毎年8月の最終土曜日に行われる「須金なし・ぶどう祭」は、須金地区で最大のイベントである。

児童は、毎年この祭で「雲海太鼓」「須金フルーツダンス」を披露している。地域との関わりを通して自己表現し承認される経験は、いずれ社会に出たときに社会貢献をする際に生きてくるものと考えられる。

PTAもこの祭りに「バザー」を出店し、親子で参加し、盛り上げている。

○授業支援を通して

3年生の社会科の時間に「農家のしごと」という単元がある。保護者の中にもぶどうや梨の栽培に従事されている方もおり、仕事の内容だけでなく、生産者として仕事や作物、消費者に対する思いを直に教えていただいている。また、高学年には、「働く大人に学ぶ」ということで、これまで保護者や地域の方に今の従事されている職業や須金という地域を盛り上げるために行っていることなどをテーマに話をいただいた。地域との関わりの中でいきいきと生活しておられる大人の姿は、児童にとってもよき指針となるものと思う。



②伝統工芸(須金和紙)との関わりを通して

須金地区は江戸時代から冬場の農閑期の生業として和紙作りが行われてきた。須金和紙は、昭和初期までは良質な和紙として取引されたと伝えられている。途絶えていた和紙作りを復活させたのは、本校と併設されていた須金中学校であったが、中学校は休校になってからは須金和紙センターの協力をいただきながら和紙漉き体験や、和紙絵の制作を行い、ふるさとの伝統を大切に作る心を育てている。

和紙との関わりでの集大成は、6年生の卒業証書作りである。校章の透かしが入った自分だけの和紙の卒業証書は、本校ならではのものであると共に、児童にとっても思い入れのある証書となっている。



和紙漉きの様子



楮(こうぞ)の皮剥作業

③地域の方々との関わりを通して

児童数・家庭数ともに少ない本校は、水泳が始まる前プール清掃には、地域の方が多く力を貸して下さる。また、PTA 主催の银杏大作戦にも、時間を見つけては银杏拾いに協力をしていただいた。银杏は道の駅等で販売し、PTA の財源の一つとなっている。

このような学校支援に児童は「地域に自分たちの元気を届けよう！」をテーマに様々な場で感謝の気持ちを表現している。デイサービスセンターでのお年寄りとのふれあいや運動会での一輪車演技など、その場その場で地域に温かい笑顔を見守る児童は広がっている。



(2) 特色ある P T A 活動

「P T A スキー教室」の実施

本校からスキー場への距離がそれほど遠くないということで、毎年2月に「スキー教室」を実施している。児童も P T A 会員も、たいへん楽しみにしている活動である。

場所は広島県廿日市市の女鹿平温泉めがひらスキー場である。大型バスを貸し切り、児童全員（14名）・教職員（7名）・P T A 会員（10名）・児童の兄弟（1名）合計32名が参加した。

教室には、山口県スキー連盟からインストラクター（1名）に来てもらい、能力別に2クラスに分けて実施した。初級のクラスにはインストラクターが、そして、中級のクラスには教職員で教えられる者が指導者としてつき指導に当たった。

P T A 会員も二手に分かれ、それぞれのクラスのサポートにあたり児童の技術もかなり向上した。

今回の助成金は、スキー教室の貸し切りバス代の一部に当てさせていただいた。家庭数が少ない本校 P T A にとって大変ありがたいものであった。



5 成果と課題

(1) 成果

学校には14名の児童と数名の教職員しかいないので、できることは限られる。しかしながら、地域や保護者の全面的な協力があるおかげで、さまざまな体験ができています。児童に身に付けさせたいのは、「コミュニケーション能力」や「自然と人の力を感じる愛郷心」である。

「なし・ぶどう祭り」や「地域合同大運動会」「ふれあい文化祭」などは、たくさんの他者と関わり、自己表現できる場となっており、コミュニケーション能力を高める

よい機会となっている。また、夏場の「川遊び」や冬の「スキー教室」などのこの地域でしかすることのできない自然を体験する活動は、確実に豊かな情操や郷土愛の素地となっている。全国学力学習調査では全ての児童が「学校が楽しい」と答え、山口県の学力定着状況確認問題の質問紙における「地域とのかかわり」についても、殆どの児童が肯定的な回答をしていることから児童の「生きる力」は、着実に育ってきていると捉えている。

PTA としては、これまでの取組を常に検証しながら家庭・学校・地域の連携を密にして、より内容の充実した教育活動を展開及びサポートしていきたい。

(2) 課題

家庭数が少ないため、保護者一人ひとりにかかっている負担はかなり大きい。学校行事の見直しを含め、地域行事への効率的な参加の方法を模索していかなければならない。本校の児童健全育成プロジェクト（スマイル・プロジェクト）は、PTA組織と教職員を学校運営協議会の3部会にリンクさせて構成している。これにより、学校運営協議会委員の方々の学校教育やPTAの活動への関わりがより大きく感じられ、大変ありがたかった。また、教職員については、3部会のいずれかに所属することで学校運営協議会への参加意識は明らかに向上した。それに比べると、PTA役員が学校運営協議会といっしょに活動する機会がまだ少ないので、2者の連携という面では課題が残る。今後は、保護者（PTA組織）が学校運営協議会とさらに連携・協働して取り組んでいけるような工夫・改善を行っていく必要がある。